

## 設計・計画部門

にし かわ まさ あき  
西川 正 晃

生年月日 1982年徳島県生まれ  
最終学歴 2007年三重大学大学院  
工学研究科建築学専攻  
博士前期過程修了  
業務経歴 2007年株式会社昭設計入社  
現在同社建築設計部在籍

## ●担当した主なプロジェクト

- ・ 柏原法務総合庁舎
- ・ 北神地区センター
- ・ 大阪府警察第一機動隊庁舎
- ・ トラスコ中山プラネット山陽
- ・ 大阪大学最先端医療イノベーションセンターCoMIT

## ●受賞

- ・ 平成26年度岡山市景観まちづくり賞
- ・ 第7回イソバンドデザインコンテスト審査委員賞

## ■青年技術者のことば

一建築とは繋ぐこと一

日頃より建築は、人を軸として風土、環境、歴史などを繋ぐ媒体であると考えています。

人が生きていくために生まれた建築は、時代を経る中で権威、芸術、風土、経済、環境と様々な要素と繋がりました。

今日の建築は経済的側面と強い繋がりを感ずますが、それ以外に目に見えない新たな価値を見出し、人と繋ぎあわせることが設計者の役目であると考えます。

大学の卒業設計では、地方の伝統的建造物群保存地区とその周囲の住居環境を繋ぐことをテーマとしました。その頃から、繋ぐことを意識し、建築設計に取り組んでいます。

ただ建築設計に長く携わる中で、「何を繋ぐか」は日々変わってきています。学生時代は「自分の考え」だけを建築に繋ぎあわせるだけででした。

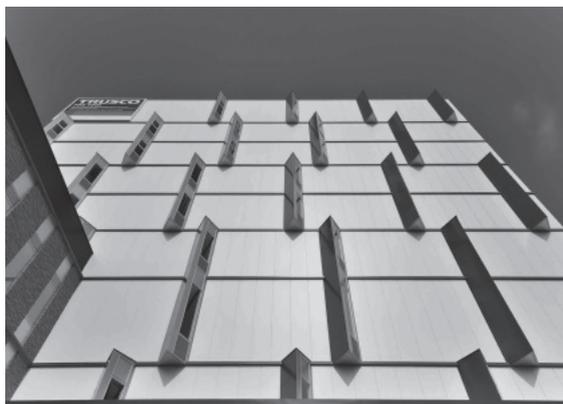
入社し、プロジェクトを経験する中で、自分本位な設計の考えと実務設計の間で葛藤した時期もありました。

その経験を経るうちに、様々な方々の思いを繋ぎあわせる必要性を強く認識しはじめました。

建築設計をはじめ10年近くになりますが、未だ「繋ぐ」ために十分な振舞いができていないと感じています。少しでも人と価値を繋げる接点になれるよう、日々考え学んでいきたいと考えています。

## ■すいせん者

鳥居久人  
株式会社昭設計  
執行役員 設計統括



## ■トラスコ中山プラネット山陽

本プロジェクトは、プロツールの販売・流通事業を展開する企業の中国地方の拠点づくりです。倉庫は縦シャフト (EV)、荷捌きスペース、プラットフォームを一直線上に配置し、素早い物品の搬出入に対応できるよう配慮しています。

外観は、岡山でかつて盛んだった「耐火レンガ」の風合をイメージしたせっき質タイルと、先進性を表現した金属サンドイッチパネルを組み合わせ、岡山の風土と企業アイデンティティとの融合を図っています。

千鳥配置の三角窓は、室内の自然換気を促す給気口や採光調整の役目を担っています。

## ■大阪大学最先端医療イノベーションセンターCoMIT

医学部の産・学・官の橋渡しとなり、次世代創薬等の実現化を目指す拠点の新築計画です。地下1階に動物実験施設、低層部に医学部生のセミナー室等、高層部に研究や開発を行うレンタルラボの機能を配した構成となっています。研究や開発機能を集約した「ナレッジコア」と研究者や教授、学生間の交流・発信の場である「インタラクションコア」の2つから成り立っています。

「インタラクションコア」は屋内外へ内部活動を発信できる場になるよう、9層吹抜を互い違いの階段で繋ぎ、上下の視認性が強く生まれるような空間としました。

「ナレッジコア」には実験の種類に応じた2種類のレンタルラボを用意し、執務環境から本格的な実験環境まで対応可能なものとしています。

